

令和7年度 県人会担い手育成事業(招へい) 報告書

期間/令和7年7月4日(金)～15日(火)



主催/福岡県

実施/公益財団法人福岡県国際交流センター



目 次

・概要	1
・参加者名簿	2
・全体プログラム日程	3
・プログラム内容	4～11
・参加者のプログラム終了日感想	12
・参加者レポート／子弟	13～20
・参加者レポート／青年リーダー	21～27
・参加者レポート／福岡県移住者子弟県費留学生	28～34

概要

1 目的

海外福岡県人会会員の子弟を福岡県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図ること。

2 期間

令和7年7月4日（金）～15日（火）

3 招へい者人数

6か国17名 【内訳】子弟10名、青年リーダー7名

国名	子弟者数	青年リーダー数
ブラジル	2	1
パラグアイ	1	1
コロンビア	1	1
メキシコ	1	1
ペルー	1	1
アメリカ	4	2
合計	10	7

4 実施項目・内容

(1) 同年代の子どもたちとの交流

八女市立黒木小学校、福岡市立那珂小学校

(2) 福岡の魅力に触れる

太宰府天満宮、マリンワールド海の中道、福岡タワー、

安川電機ロボット村、小倉城、博多祇園山笠、八女伝統工芸館

(3) ルーツを探る

親戚、知人、家族会会員宅へのホームステイ

(4) 日本文化の体験

手しき和紙（うちわ作り）体験、日本の伝統の遊び 等

5 主催／福岡県

実施／公益財団法人福岡県国際交流センター

参加者名簿

No.	県人会名	役割	氏名	国名
1	ブラジル福岡県人会	子弟	古賀 安田 春喜 イヴェス	ブラジル
2	ペレン福岡県人会	子弟	吉野（斎藤）竜一 ヴィニシウス	
3		リーダー	上岡 サミーリス 美波	
4	パラグアイ福岡県人会	子弟	谷川 ひな	パラグアイ
5		リーダー	淵脇 美由紀	
6	コロンビア福岡県人会	子弟	倉富 ロドリゲス 明美 ビクトリア	コロンビア
7		リーダー	田中 多美	
8	メキシコ福岡県人会	子弟	ツツミ イチロ	メキシコ
9		リーダー	飯田 アルトゥーロ	
10	ペルー福岡県人会	子弟	アルバレス 佐々木 みつお エンリケ	ペルー
11		リーダー	手嶋 儀武 さゆり ナンシー	
12	ハワイ福岡県人会	子弟	黒岩 チャン いまり エブリン マカナ	アメリカ
13		リーダー	ウエヒラ ケルシー アケミ	
14	ハワイ島福岡県人会	子弟	松本 健	
15	南加福岡県人会	子弟	川上 エリー 和都実	
16	シアトル・タコマ福岡県人会	子弟	ライアン 凜諒	
17		リーダー	エリクソン ジョン	

【参加者】

6か国10県人会から子弟10名、青年リーダー7名が参加しました。

【福岡県移住者子弟留学生（県費留学生）】

No	県人会名	氏名	国名
1	ブラジル福岡県人会	横山 江藤 みゆき レジーナ	ブラジル
2		麻生 エニオ 崇雄	
3		田仲 金田 明男 チアゴ	
4		秋吉 マルシオ 秀雄	
5		中尾 白井 多美	
6	パラグアイ福岡県人会	熊谷 博満	パラグアイ
7		松尾 ベニテス 香	
8	ボリビア福岡県人会	林 明里 ロレナ	ボリビア
9	メキシコ福岡県人会	ロサス フエルナンデス セシリア 恵み	メキシコ
10	南加福岡県人会	長谷川 エヴァン 翔太	アメリカ

「福岡県移住者子弟留学生とは」・・・

専門の知識と、日本、そして福岡県についての理解を深めるために、福岡県内の大学に1年間留学している海外福岡県人会の子弟

全体プログラム日程

日 稲		スケジュール内容	宿泊先
7／4 (金)	終 日	入国	
7／5 (土)	午 前	オリエンテーション	
	昼	歓迎会	
7／6 (日)	午 後	小学校交流準備	
	午 前	太宰府天満宮視察	
7／7 (月)	午 後	小学校交流準備	グローバル アリーナ
	午 前	福岡県庁・福岡県議会表敬	
7／8 (火)	午 後	マリンワールド海の中道見学	
	午 前	八女市立黒木小学校との交流	
7／9 (水)	午 後	八女伝統工芸館見学(手すき和紙うちわ作り体験)	
	午 前	安川電機ロボット工場・安川電機みらい館見学	
7／10 (木)	午 後	北九州市視察(魚町銀天街、小倉城)	
	午 前	福岡市立那珂小学校との交流	
7／11 (金)	午 後	ららぽーと福岡見学	
	午 前	福岡市視察(福岡タワー、福岡市民防災センター)	
7／12 (土)	午 後	博多祇園山笠他流れ、櫛田神社見学	
	終 日	ホストファミリーとの対面	
7／13 (日)	終 日	ホストファミリーとの交流	ホームステイ
7／14 (月)	午 前	ホストファミリーとの交流	グローバル アリーナ
	午 後	送別会	
7／15 (火)	終 日	出国	—

プログラム内容

7月4日 (金)	◎入国	<p>3か国(アメリカ・コロンビア・メキシコ)から子弟6名、青年リーダー4名が来福し、家族会会員と県費留学生が出迎えました。出発日のフライト遅延、空港での混雑により、到着予定だった3か国(ブラジル・パラグアイ・ペルー)からの子弟4名、青年リーダー3名が翌日の入国となりました。</p>      				
	◎オリエンテーション・歓迎会	<p>オリエンテーションでは、福岡県国際交流センターより、プログラムの趣旨や滞在スケジュールの説明を行い、参加者が自己紹介を行いました。その後、滞在先のグローバルアリーナの「GA クラブ」で歓迎会を開催しました。ホストファミリーや家族会会員等合わせて44名が参加して、親睦を深めました。</p>   				
7月5日 (土)	◎小学校との交流準備	<p>アイスブレイクで緊張をほぐした後、滞在中に訪問する2つの小学校で、自国紹介のプレゼンテーションを行うため、青年リーダーや子弟留学生のサポートを受けながら、持参した写真やイラストで、ポスターを作成しました。</p>   				

	◎遅れて3か国合流
7月5日 (土)	<p>遅れていた3か国(ブラジル・パラグアイ・ペルー)からの子弟5名、青年リーダー3名も無事に長旅を経て来福し、家族会の方の温かな歓迎に安堵の表情を浮かべていました。空港での記念撮影後、グローバルアリーナへ移動し、先に到着したメンバー達と合流しました。</p> 
7月6日 (日)	<p>◎太宰府天満宮見学</p> <p>太宰府天満宮の本殿が改修工事中だったため、仮殿での学業祈願を行いました。参加者は厳かな雰囲気の中で、神職の動きなどを静かに興味深く観察し、代表の1名が白い衣装を着て、みんなで揃って頭を下げたり、おみくじを引いたり、日本の文化を体験する貴重な経験を行いました。昼食は、茶屋の座敷席で、池の景色を楽しみながら、かつ丼と梅が枝餅をみんなで食べました。</p> 

◎福岡県庁・福岡県議会表敬

午前中は、福岡県庁と、福岡県議会を表敬訪問しました。県庁では大曲副知事よりご挨拶をいただき、参加者は緊張した表情をうかべながら、日本語での自己紹介を行いました。ペルーの青年リーダー手嶋儀武さゆりナンシーさんが代表で挨拶をし、お土産を大曲副知事より頂き、それぞれの県人会からのお土産を副知事へ手渡ししました。その後、議会棟会議室で、中尾副議長よりご挨拶いただき、歓談後集合写真をとりました。この日は、県庁の食堂にお弁当を持ち込み、昼食をとりました。



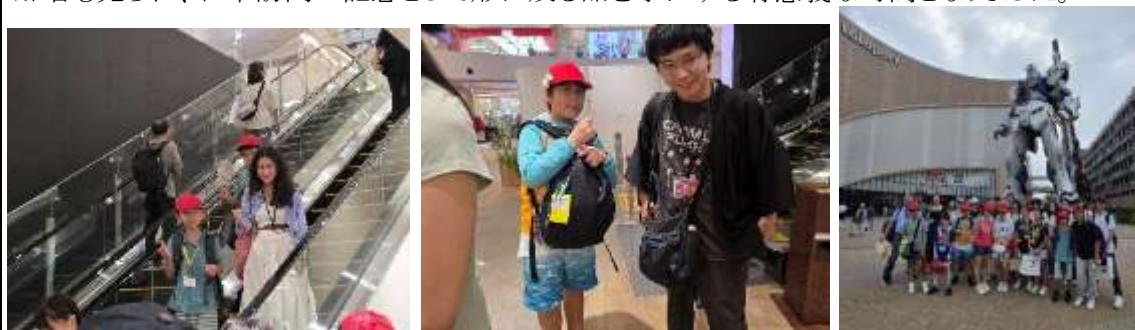
7月7日
(月)

◎マリンワールド海の中道

午後は、吉塚駅からJRを利用して、海ノ中道駅へ移動しました。館内到着後は、各自で自由に散策を行い、イワシのショーを鑑賞したり、屋外ではペンギンの様子を見学したりしました。その後、ショープールに集合し、全員でイルカとアザラシによるショーを観覧し、涼やかなひとときを過ごしました。



	<p>◎八女市立黒木小学校</p> <p>最初に体育館で自己紹介をした後、5年生2クラス、6年生の1クラスにわかつて各教室へ移動し、日本の小学生へ自國の紹介をしました。その後、折り紙やけん玉などのゲームを通して交流をしました。給食後、熱中症予防のため外での遊びはできず、室内や体育館で紙飛行機を飛ばしたり、ドッジボールをしたり、掃除の体験をして、言葉の壁を越えて、交流を深めました。最初は緊張していた子供たちも、最後は笑顔で交流を楽しんでいました。</p>
7月8日 (火)	
	<p>◎八女伝統工芸館</p> <p>日本の伝統的な和紙作りを学び、和紙を使ったうちわ作りの体験を行いました。2班に分かれ、ひとつの班がうちわを作る間、もう一方の班は工芸館内を見学したり、お土産を買ったりしました。一人一人才オリジナルのうちわの柄をデザインするのを真剣に悩んでいる表情が、印象的でした。</p>
7月9日 (水)	<p>◎安川電機ロボット工場・安川電機みらい館見学</p> <p>2つの班に分かれて、「ロボット工場」と「安川電機みらい館」を見学しました。「ロボット工場」では、自動車以外にも電気・電子機器、半導体製造、バイオ、食品、医療品、物流など幅広い産業の生産現場で使われている小型産業用ロボットを組み立てる様子を見学できました。「安川電機みらい館」は、ロボットとのゲーム対戦を通して、ロボットの技術を視察・体験できる施設で、参加者も熱心に観察していました。</p>

	<p>◎魚町銀天街・小倉城</p> <p>安川電機の見学後、JRで黒崎駅より小倉駅まで移動し、昼食をとった後、魚町銀天街で自由時間をとり、小倉城へ向かいました。</p> <p>小倉城1階では、ミニシアターで歴史や文化を学ぶだけでなく、当時の衣装をバーチャルで試着したり、流鏑馬のゲームをしたり、籠に乗ったりする体験を通して、日本の文化を体験していました。最上階や、途中の窓から眺める町の景色も参加者は楽しんでいました。</p> 
	<p>◎福岡市立那珂小学校との交流</p> <p>那珂小学校では、4年生の5クラスに分かれて教室に入り、自己紹介をした後、自国の文化や習慣を紹介し、交流を行いました。クラスでは、歌の披露や浴衣を着用して日本文化の紹介、さらには太鼓の演奏などが行われ、日本の伝統文化に触れる貴重な機会となりました。家庭科室にて給食の準備を行い、その後各クラスに移動し、児童とともに給食をいただきました。食後は校庭に出て、バスケットボールや「だるまさんがころんだ」などの遊びを通じて児童と交流を深める場面も見られました。また、掃除の時間にも参加することで、学校生活の一端を体験することができました。</p> 
7月10日 (木)	
	<p>◎ららぽーと福岡</p> <p>小学校との交流を終えた後、参加者は徒歩にて近隣の商業施設「ららぽーと福岡」へ移動し、施設内の見学を行いました。館内では、日本の雑貨や菓子類、炊飯器などを購入する参加者も見られ、日本訪問の記念として形に残る品を手にする有意義な時間となりました。</p> 

7月11日 (金)	◎福岡タワー
	<p>この日は、終日福岡市内の視察を行いました。福岡タワーでは展望台からの眺望を楽しみ、参加者は広がる海や市街地の美しい景色に感激の声を上げる場面も見られました。各自、時間をかけて景色を堪能した後、上層階にて記念撮影を行い、スタンプラリーにも参加するなど、充実したひとときを過ごしました。</p>    
	◎福岡市防災センター
	<p>防災センターにて火災体験コースに参加し、火災時の煙からの避難体験、地震の揺れの体験、ならびに消火器を用いた消火訓練を実施しました。近年発生したロサンゼルスの山火事やペルーでの地震が記憶に新しいこともあり、参加者にとって、災害への理解と備えを深める有意義な機会となりました。</p>   
	◎山笠他流昇き・櫛田神社
	<p>今年度は山笠の主要なイベントとプログラムの日程が合わず、他流昇きの日に中洲流れの出発のみを見学しました。併せて、櫛田神社の視察も実施し、地域の伝統文化への理解を深めました。</p>    
	◎ホストファミリーとの対面
	<p>FUKUOKA IS OPEN センターにて、福岡県国際交流センターの武濤専務理事より歓迎の挨拶がありました。記念品の贈呈を受けた後、参加者はそれぞれ持参したお土産を手渡しし、ホストファミリーとの対面を経て、各滞在先へと向かいました。</p>   

	
7月12日 (土)	ホストファミーとの交流
7月13日 (日)	ホストファミーとの交流
7月14日 (月)	◎送別会 ホストファミー、家族会役員、県関係者など約60名が参加し、送別会を開催しました。3名の子弟とリーダー1名がスピーチをし、普段は日本語を話さないブラジルの子弟は、全て日本語でスピーチを行い、参加者に驚きと感動を与えました。送別会終了後、一行はバスでグローバルアリーナへ向かいました。
	    
	◎グローバルアリーナ プログラム期間中、ホームステイ以外の日に宿泊していたグローバルアリーナに再び戻り、最後の食事および出国準備を整えました。その後、県費留学生による花火のサプライズイベントが催され、参加者一同は華やかなひとときを楽しみながら、名残を惜しました。
	  



◎帰国

プログラムを無事に終え、家族会の皆様や県費留学生の方々に温かく見送られ、それぞれの思いを胸に、福岡空港より帰国の途につきました。

7月15日
(火)



参加者のプログラム終了時の主な感想

アンケートより抜粋

【子弟からの感想】

- ・新しい友達とあって楽しかったです。まだわからない人も会えてうれしかったです。
- ・儀式や建物は興味深かったです。
- ・太宰府天満宮で、祈祷を20分待たなければならなかったのは大変でした。そしてストラップは1, 235円は高かったです。
- ・副知事の訪問と副知事と一緒に写真を撮ることが出来て本当に良かったです。
- ・イルカのショーや、ペンギンなど初めて見ました。
- ・学校でたくさん友達を作りました。そして、ブラジルについて発表しました。
- ・みんなでドッジボールをして楽しかった
- ・うちわを作るのがたのしかったです。お土産として持つて帰るのが嬉しかったです。
- ・そこでのロボットがいろいろなものをできるのが見てすごいとおもいました。ロボットがなにをできるかできないのが見てたのしかったです。
- ・自分たちより賢いロボットに勝てて、おもしろかったです。
- ・小倉城はかっこいいです。2階はほんとに楽しかったです。だって、馬のゲームがありました。
- ・中ではたくさん楽しめるアトラクションがありました。馬のゲームとか、小倉城の時代の服を着ることです。
- ・学校が楽しかったです。学生たちが歓迎会をしてくれました。グローバルアリーナとホストファミリーは良かったです。ただ、日本に来る時の上海経由は大変でした。
- ・10日間はめっちゃ短かったです。でもほんとに楽しかったです。また私はここにかえって県費カリダーになりたいです。ありがとうございます。

【リーダーからの感想】

- ・ホームステイの経験はいちばんたのしかったです。何年も会っていなかった家族と時間を過ごし、一緒に素敵なお思い出を作ることができ、とても楽しい時間をすごしました。
- ・ロボットとその工場を見学できて、とても楽しかったです。ガイドの人が教えてくれた情報も本当におもしろかったです。
- ・通訳をするのが大変でしたが、なんとかなりました。
- ・副知事と副議長の前で発表する機会を得られたことは嬉しかったです。
- ・八女の紙工芸について学び、団扇づくりを体験して楽しかったです。
- ・那珂小学校は素晴らしい学校でした。教室では、プレゼントを作つて、もっと日本の文化を知りました。
- ・ららぽーとはとても楽しかったです。お店を見て回る時間も楽しめました。
- ・福岡タワーからの眺めは素晴らしいです。
- ・あつという間に過ぎましたが面白かったです。
- ・とても役にたつことをたくさんまなびました。国にもどつたら、みんなにシェアします。
- ・ホームステイが一番よかったです、それ以外で一番の思い出は、2つの小学校での経験です。日本の子供たちがあれほどしっかりとした規律と生活のリズムを持っていることに、とてもおどろきましたし、感心しました。子供たちと一緒に遊ぶのもとてもたのしくて、別れるのが寂しかったです。

参加者レポート

子弟



ブラジル福岡県人会
古賀 安田 春喜 イヴェス
Koga Yassuda Yves Haruki

「プログラムで得たこと・学んだこと」

福岡県人会のしていしようへいプログラムにさんかすることが出来て、ぼくは日本に行き、とてもすばらしい経験をしました。日本のすごく進んでいるところや、むかしからの伝統を見られて、本当にラッキーだなと思いました。この体験を通して、ぼくは自分の持ち物に対してより一層責任を持つこと、そしてお父さんやお母さんからあずかったこづかいのお金を、ちゃんと考えて使うことを学びました。

それから、日本語や英語、スペイン語でも、新しい言葉や言い方をたくさんおぼえることができました。いろいろな国から来た友だちや、ぼくたちを温かく迎え、サポートしてくれた国際交流センターの皆さんや、ホームステイと留学生の方たちに会えて、お世話になったことは、ぼくの一生のたからものです。

また、家族といっしょに日本の伝統や習慣を大切に守るのが大事である事を少し分かりました。

～御家族からのメッセージ～

今回の渡航を通じて、息子は成長し、このプログラムの目的をしっかりと理解した上で、見学や文化体験にも真剣に取り組んでおりました。

また、このような大規模なプログラムの実現には、たくさんの方々のご尽力と綿密な計画が必要であることも、自らの経験を通して学んでいたようです。

将来、大人になるまであと二回は日本を訪れたいという強い思いを持つようになりました。

さらに、今後はこのようなプログラムのリーダーとなり、大学院進学に向けた奨学生としての道を目指したいという目標も持ち始めております。

今回いただいたご支援への感謝の気持ちを、将来の行動で しっかりとお返ししていきたいと申しております。



パラグアイ福岡県人会
谷川 ひな
Tanikawa Matsuoka Hina Aline

「プログラムで得たこと・学んだこと」

*たくさんのお友達を作つて会話ができ仲良くすることを学びました。

*さまざまな国のさまざまな人々と分かれ合うことを学びました。

*家族と離れての寂しい思い。家族は、大切にすること。

～御家族からのメッセージ～

陽菜は、とても自立した子で自分に与えられたあらゆる小さなことに感謝する方法を知っています。 すごく恥ずかしがりやだけど人との会話がもっと出来るようになりました。



ベレン福岡県人会
吉野(斎藤)竜一ヴィニシウス
Saito Vinicius Ryuichi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

素晴らしい思い出が沢山できました。初めて飛行機に乗り、父の祖母の生まれ故郷である福岡から日本へ向かいました。長い旅でした。飛行機は大幅に遅れ、中国で乗り継ぎができず、ようやく福岡のグローバル・アリーナに着き、皆から温かく迎えられました。刺激的と素敵な体験でいっぱいの研修が始まりました。リーダー、グループの友達、県費留学生、福岡センターの皆様など、私を温かく見守ってくれる多くの素晴らしい人達に出会いました。

日本で一番楽しかったのは、学校を訪問し、生徒たちと話し合ったことです。生徒たちは皆とても礼儀正しく、整然としていて、ブラジルの学校とは全く違いました。実際、日本は教育、交通、医療など、多くの面でブラジルよりもはるかに発展しています。

ホームステイは特別な経験でした。親切なイベッチさんがラーメン屋と回転寿司に連れて行ってくれました。彼女はビーチにも連れて行ってくれました。彼女はいつもとても気配りがあり、温かく迎えてくれたので、滞在は快適なものになりました。

私は夢が叶いました。この研修で自分の持ち物にもっと責任を持つこと、そして勉強と献身がとても大切であることを学びました。

～御家族からのメッセージ～

竜一は14歳で日本へ行くことができ、大変嬉しく思います。日本を訪れ、大学院生と出会った経験は、彼にとって大きな刺激を与えるました。帰国後、彼は日本語を学び、将来青年リーダーか県費留学生になり、もう一度日本に戻りたいと決意しています。

同年代のお友達と交流しながら、英語とスペイン語を練習できたことを嬉しく思っていました。

この研修で得た物は、友情、寛大さ、そして日本文化に触れて自分の将来がもつとはつきりした事です。

この経験は彼の人生に深く影響し、彼は今、いつか日本に戻ってくるという夢を抱いています。

この機会をくださった福岡国際交流センターの皆様に心から感謝申し上げます。また、研修の最初から最後まで沢山サポートして頂いた職員の皆様、上岡美波先生、ホームステイ中に竜一を温かくおもてなしいただいた猪俣イベッチさんと丸尾さんファミリーにも感謝申し上げます。



コロンビア福岡県人会
倉富 ロドリゲス 明美 ビクトリア
Rodriguez Kuratomi Akemi Victoria

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この日本での体験を通して、私は日本の文化、習慣、技術、そして日本人がどのように環境を大切にしているかを知ることができました。

私の体験は本当に素晴らしい、とても楽しかったです。いろいろな場所に行き、新しい食べ物を食べ、コロンビアでは手に入らないものまで買いました。

日本の文化にはとても驚きました。人々はとても礼儀正しくて、時間を守り、環境を大事にし、親切で、清潔さをとても大切にしています。

たとえば、電車はいつも時間通りに来て、集まりには必ず時間通りに行かなければなりません。家の中では靴を脱ぐのが当たり前です。学校には、子どもたちが履くための特別な上履きがあります。

子どもたちは毎日学校を掃除してから家に帰ります。道にはゴミが落ちていません。

電車などの公共の乗り物の中では、みんな静かにしています。あいさつをするとき、ハグをすることはあまりありません。

レストランでは、食べ物がショーウィンドウに飾られていて、ベルトコンベアで料理が運ばれるお店もありました。

あるラーメン屋さんでは、まるで競争のようにみんなが早く食べるのが普通で、急いでいる人が多くて、みんな時間にとても正確でした。

日本の伝統的な遊びも学びました。これらすべてのことを、私の日常生活に活かして、もっと我慢強く、もっと人を尊敬して、もっと時間を守れるようになりたいです。

そして、トイレについてとても驚いたのは、すごく清潔で、トイレをきれいに保つ工夫がされていて、音楽まで流れることです。

このすばらしい体験は、私の人生にとって大きな財産になります。いろいろな国の人たちと交流し、新しい言語を使い、新しい文化を学び、新しい友達もできて、たくさん楽しみました。

この人生を変えるような機会をいただき、本当にありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

私たちの娘にとって、この経験はとても重要なものでした。なぜなら、彼女は日本の文化や私たちの祖先がどこから来たのかを実際に体験することができたからです。曾祖父母の出身国を知り、自分たちのルーツを理解することができました。

私たちは、アケミが言語、食べ物、文化に対してとても意欲的になって帰ってきたのを見て驚きました。彼女は抹茶が大好きになり、自分でおにぎりを作るようになり、以前はしなかったのに日本語で私と話そうとします。

明美は日本と一緒に過ごした友達をとても恋しがっています。彼女にとって、本当に忘れられない体験だったようです

娘にこのような機会を与えていただき本当にありがとうございます。



メキシコ福岡県人会
ツツミ イチロ
Tsutsumi Rangel Ichiro Gustavo

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この11日間の旅行で、私は両親に頼らないですこし自分でいられるようになりました。自分で解決しなければいけないことがあると分かりました。

日本の習慣や、私と同じくらいの子供たちの生活、日本の家族について覚えることができて、とても楽しかったです。

また、他の人を尊敬気持ちや、正直でいることがとても大切だと気づきました。

時間を守ることも、尊敬の一つだと学びました。

～御家族からのメッセージ～

お母さんとして、イチロウが福岡に行く前は、毎日の生活も気持ちの面でも、私たち両親にとても頼っていた子で、一人ですることがとても怖かったようです。

最初は、私たち両親は一人で旅行に行くことにとても不安がありました。でも、帰って来たイチロウは、前より明るくなつて、新しいことを知りたいという気持ちが強くなり、こわがることが少なくなりました。

性格も、もっと社交的になったと思います。家族といふ時間の大切さも、もっと感じるようになりました。自分のことにも、前より責任を持つようになり、福岡で学んだよいことをまねしたいという気持ちもあるようです。

このプログラムは、体も心も変わる11歳の子どもたちにとって、とてもよい経験になると思います。日本とのつながりを強くする助けにもなります。



ペルー福岡県人会
アルバレス 佐々木 みつお エンリケ
Alvarez Sasaki Mitsuo Enrique

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムに参加して、とてもいい経験でした。福岡タワーや小倉城、製紙工芸館などを訪問し、自分でうわを作ることができました。

いつも早めに夕食をとり、より多くの時間を友達と話したり、サッカーやバレーボールをしたりすることができました。

ホームステイでボウリングに行ったり、ラーメンや寿司を食べたりしましたので、とても楽しかったです。海にも行きまして、本当に忘れられない思い出になりました。

福岡で体験したこと、新しい友達ができしたこと、おいしいものを食べたこと、ずっと心に残る思い出になりました。

どうもありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

ミツオの場合の最も顕著な変化の1つは、日常の活動を行うときは独立しており、抗議することなく家事をこなし、ケータイを前より見なくなりまして、もっと家族と過ごすようになりました。

ミツオはこのプログラムに参加して、とてもよかったです。どうもありがとうございました。



ハワイ福岡県人会

黒岩 チャン いまり エブリン マカナ

Kuroiwa Cheung Imari Evelyn Makana

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本のことを持つことができました。たとえば、日本のうちわ作りや、日本のロボットの進化について学びました。外国の友だちもたくさんできました。コロンビアやブラジルの人と話をしたり、バレーボールで遊びました。とても楽しかったです。チームで協力して、プレゼンの準備や練習、発表をしました。外国人とのコミュニケーション力も少しよくなりました。たくさんの新しい人に出会い、友だちもできてうれしかったです。毎日一緒に過ごせて楽しかったです。短い時間でしたが、とてもたくさんことを学びました。

いつか、※県費やリーダーになってこのプログラムに戻って来れる日を楽しみにしています。ありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

この度は、プログラムへのご招待ありがとうございました。そして、娘のいまりが大変お世話になりました。出発前、彼女はこのプログラムを通して日本に行けること、そして日本的小学校を訪問できることに特別感を感じ、とても楽しみにしていました。その一方で、知らない方々との共同生活には少し不安も抱えていた様子でした。

しかし、プログラムを終えてハワイに戻ってきた娘に会うと、携帯に保存されていた写真の多さに驚かされました。また、友達や県費とのメッセージのやり取りからも、強い絆が生まれたことが伝わってきました。グローバルアリーナでの時間や数々の思い出を胸に、複雑な気持ちで家路についたのではないかと思います。

帰国後は、自分で荷ほどきをし、洗濯機を回し、食事の準備まで進んで行っていました。数日後には再び福岡に戻るためのパッキングを始め、旅行当日の着替えまで整えていました。

親元を離れたことで家族の大切さを改めて感じると同時に、年上のリーダーや県費に甘えたり遊んでもらったりしながら、友達との時間も大切に過ごしてきたことが伝わってきます。今でも毎日、撮ってきた写真を振り返りながら、思い出話に花を咲かせています。

土産話の中で最も驚いたのは、「私はたった二か国語しか話せない」と言っていたことです。世界の広さに気づき、自分を見つめ直すきっかけになったのだと思います。

※「県費」…福岡県移住者子弟留学生(県費留学生)



ハワイ島福岡県人会

松本 健

Matsumoto Kenneth Truman

「プログラムで得たこと・学んだこと」

最初は、ほかの人としゃべるのが怖くて、そこまで誰も知らなかつたから、友達はいないと思っていたけど、だんだんいろいろ人としゃべっていってお友達ができた。例えば、グローバルアリーナに泊まっているとき、一人の男の子がお友達になりたいかと聞いてくれて、とてもうれしかった。ほかには、友達の片づけを手伝ってあげて友達になった。

そして、何人かは、先生が起きてくださいと言わないと起きられなかつたけど、僕は、朝アラームを自分でセットして、問題なくひとりで起きることができた。ほかにも荷造りを自分一人でやりました。

小学校でのプレゼンテーションは緊張したけど、プログラム、すごく楽しかったです。

ありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

長期間、家族と離れて過ごすという経験は、息子にとって初めてのことでした。リーダーや同じハワイのほかの県人会からの参加者と一緒に安心感はありました。周囲になじめるのか、世界中のほかの子供たちと楽しく過ごせるのか少し心配もありました。本人は、ハワイに戻って来て、この経験によって何かが変わったという意識はありませんでしたが、テレビなどでブラジルやペルー、スペイン語やポルトガル語などの話が出たら、プログラムに参加したお友達のことなどを話してくれます。このような貴重な機会を与えてくださった FIEF の皆様、ヒロの県人会の方々に本当に感謝しています。



南加福岡県人会

川上 エリー 和都実

Kawakami Ellie Natsumi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムで得たことは世界からの色々な友達、福岡の長い歴史と工芸品のことを学びました。八女伝統工芸館でうちわ作りをした時、一つ間違えたら最初から始めないと駄目だと知り、とても正確に和紙を作る道具を揺らさなければないことを学びました。とても良い経験でした。また福岡の小学校へ行けて日本の小学校の日常生活はどういう一日か分かり、どのように私の小学校と違うか知りました。日本の学校は学生が学校を掃除しますが、私の学校は少しだけ学生が掃除をして、あとは管理人がしてくれます。給食も学生が配りますが、私の学校では給食係りの大人が配ってくれます。給食がとても美味しかったです。また、折り紙をしたり、日本の妖怪、日本の昔からある子供の遊びのことを教えてもらいました。楽しくて面白い経験でした。福岡に行けて、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

和都実は旅立つ直前に、色々なことを考え始めたのか、とても不安になっていました。但し、一度決めたことであり、福岡にはどうしても行きたい気持ちが強く、勇気を振り絞ってロサンゼルスを離れました。しかし日本へ到着した瞬間からその不安は消えたみたいです。家族から離れて宿泊したことのない娘でしたので、帰国した時には旅

立つ前より頬もしく見えました。他国のお子様方とも接する機会を頂き、何人かとは共通語が日本語であることも新鮮だったみたいです。今も数人と連絡をとり続けています。八女伝統工芸館やうちわ作り、福岡の歴史、小学校の違いや新たな友達を通して、他国との交流の大切さを学び一回り成長したような気がします。貴重な経験をさせて頂き本当に有難うございました。



シアトル・タコマ福岡県人会

ライアン 凜諱

Ryan Liam Jeremiah

「プログラムで得たこと・学んだこと」

学んだこと: 日本の気候、文化、習慣

最も印象的(最も楽しかった)だったこと: マリンワールドでイルカの水しぶきを浴びたこと

日本語も学ぶことが出来た。地元の小学校を目の当たりにできたのは貴重な経験。給食はアメリカのそれよりもかなり良かった。(メニュー内容は不明、全てが美味しかった。)

7年ぶりに福岡を訪れることが出来て良かった。全行程が楽しかった。10人新しい友達が出来た。

～御家族からのメッセージ～

着替えをするときにプライバシーを気にするようになった。

持ち物を自身で把握する際に自分の思うように準備が出来るように予め考えて行動できるようになった。

参加者レポート

青年リーダー



	<p>ベレン福岡県人会 上岡 サミーリス 美波 Ueoka Samirys Haruna</p>
<p>このプログラムでは子弟者がメインとなり見学した場所では新しい経験が得たと思います。それは引率者が日本語を子供の母語に通訳をし、最初は自分が理解をした後通訳をするのはとてもプロフェッショナルに見えました。私は今の知恵（ポルトガル語と日本語）を活かす為に難しい単語を聞いても子供には分かりやすく説明できるように努力致しました。この様な機会があるのは幸いです。</p> <p>初めての副知事と副議長との面会は緊張しました。ですが、子供達が緊張しているところを見て自分がしっかりとしなければならないと思い気が付いたら、質問もできずもうその日が終わってしまいました。</p> <p>日本とブラジルの文化の違いは人は個人で動かないという事です。その日の行事と準備の時はみんなで協力しなければならぬ、お互いを助け合わなければならぬ、これは単純ですが他国では難しい事です。ですが、それを如何にどうすればできるかが私達のこれからボランティアとして日系団体を手伝いながらその答えを見つけなければならないと思いました。</p> <p>この様な機会を心からお礼申し上げます。</p>	



	<p>パラグアイ福岡県人会 淵脇 美由紀 Kumagai De Fuchiwaki Teresa Miuki</p>
<p>この度はお世話になりました。二週間の間に様々な経験 又は色々な場所に行き大変いい経験をしたことをかんじました。</p> <p>太宰府天満宮では、昔ながらの日本を見学する事が出来ました。</p> <p>八女小学校では子供達が素直で行儀良いとのことを凄いと思いました。又和紙で自分のうちわを作ること、すごい仏壇を見学したりすることが出来ました。そこでおいしい抹茶ソフトクリームを食べたことを印象に残りました。</p> <p>ロボット工場では特に珍しいとは私は思います。</p> <p>水族館では、子供たちが初めて見た海の生き物 イルカのショーなどが子供たちの笑顔が思い浮かびます。</p> <p>又県庁で歓迎されたことなどが印象に残ってます。</p> <p>小倉城又は山笠など見られて嬉しかったです。</p> <p>福岡タワー、上からの福岡が見られて良かったと思います。</p> <p>なか小学校での子供達はとても元気なことにびっくりしました。この学校で印象に残った事はお掃除をまだ膝について床をふくことです。</p> <p>GLOBAL ARENAでの食事は美味しく頂きました。ただ果物や生野菜がもっと欲しいなあと思います。外食の時はもっと和風の食事が良いと思います。</p> <p>ホームステイでは、久しぶりの家族に再会でき楽しい週末を過ごしました。</p> <p>このプログラムは子供達にとって初めて親から離れる経験、全てが初めての子供達にも素晴らしいと思います。引率者に行く方にももっと責任を持って自分が連れていって子を見てほしかったです。</p> <p>最後に国際交流センターの皆様大変お世話になりました。</p> <p>ありがとうございました。</p>	



コロンビア福岡県人会

田中 多美

Tanaka Nunez Tami

私は今回のリーダープログラムを通じて、世界中の県人会を結ぶ「目に見えない絆」を深く理解することができました。その中心にあるのが福岡であり、福岡こそが私たちすべての参加者、そして私たちのコミュニティや家族をつなげる場所だと感じました。

再び福岡を訪れることができ、しかも今回はリーダーとして参加することができたことは、私にとってかけがえのない経験でした。祖先とのつながり、現在の自分、そして未来への希望を改めて結びつける貴重な機会となりました。

福岡の文化、伝統、革新、そして美しい風景に触れることで、なぜ多くの人々がこの地を愛し続け、世代を超えて県人会の活動を守り、受け継いできたのかを理解することができました。その情熱と誇りを、私自身も心から感じ取ることができました。

プログラムで行われた一つひとつの活動を通して、自分のルーツがあるこの地について学びを深めることができ、その過程で福岡への愛情をますます強く抱くようになりました。そしてその思いを胸に、自分の国へ戻り、所属する県人会の仲間や地域社会にこの経験を分かち合いたいと強く感じています。特に若い世代に対して、この絆の橋渡しに参加してほしいと願っています。

さらに、このプログラムを実現してくださったすべての方々に心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。皆さまのご尽力があったからこそ、私たちはこの貴重な機会を得て、互いに学び合い、未来につながる関係を築くことができました。

福岡は、単なる一つの地域ではなく、私たちにとって心のふるさとであり、世界の人々をつなげる架け橋です。この素晴らしい地を再び訪れることができた喜びと、ここで得た学びを生かし、今後も日本と私の国との絆をより深めていきたいと思います。

私にとって「福岡へ行くことの感動」は、人生の中でかけがえのない宝物となりました。



メキシコ福岡県人会

飯田 アルトウーロ

Iida Naito Arturo

息子や娘たちから子弟招へいプログラムに参加した時のいろいろな話を聞かせてくれたとき、国際交流センターがどれほど重要で素晴らしい役割を担っているか、正直理解できていなかった事に気づきました。このプログラムは新しい世代に、自分たちのルーツである日本、特に福岡の文化への興味や愛情を芽生えさせる、大切な活動であると実感します。

このプログラムに参加でき、その功績の一部になれたことは、本当に光栄であります。このようなプロジェクトを成功させるために貢献し、手助けすることは日本国内外の福岡県人会に属する私たち全員の務めだと思います。毎年、参加者たちがより良い経験をできるように継続していくことは、簡単なことではありませんが、みんなで協力すればきっと可能になります。

始めは、自分の息子でも家族でもない子供の世話をする事に対して責任感を感じ、とても不安でしたが、日本に

着いてから徐々に自分の役割が何であるかが理解できてきました。それは、自分はイチローくんだけの世話をするのではなく、皆でお互い助け合いながら楽しんで交流する事で、まるで大きなコミュニティを作っているように感じました。

スケジュールは完璧に計画されていて、関わったスタッフみんなが素晴らしい姿勢とプロ意識を示してくれたので、私も同じように貢献しなきゃって思いました。組織も完璧で、本当に手際が良くて、訪れた場所も全部みんなにとって非常に興味深い物ばかりでした。様々なテーマを取り入れたことは大成功だと思います。

30年以上ぶりに日本に帰国し、懐かしい過去を振り返ることができました。家族や子供時代を懐かしむ気持ちでいっぱいでした。この思いを家族に伝え、子供たちに福岡出身であることの誇りと大切さ、私たちが福岡に帰属していること、そしてその文化がさらに世代を超えて受け継がれるよう会員の家族や世界中の福岡県人会と協力していくかなければならないことなどを伝えていきたいと思っています。

滞在中に皆様から受けたおもてなしとサポートには感謝の気持ちでいっぱいです。当県人会や国際交流センターの皆様の期待に応え、メキシコの良い印象を残せたことを願っています。色々とお世話になりました。本当にありがとうございました。



ペルー福岡県人会
手嶋 儀武 さゆり ナンシー
Teshima Guibu Sayuri Nancy

2023年には、福岡県子弟留学生として1年間福岡に行き、九州産業大学造形短期大学部で学ぶ機会を得ました。その間、子弟招へいにも参加し、リーダーたち、子どもたち、そして県費留学生たちと素晴らしい思い出を作ることができました。今回、リーダーとしてプログラムに参加し、異なる視点を経験する機会を得ました。

子弟招へいは、県人会の子どもたちにとって、日本の文化や自分たちのルーツを学び、人間として成長するための素晴らしい機会だと思います。子どもたちはさまざまなことを経験し、さまざまな国籍の新しい友達を作る機会を得ます。太宰府天満宮の祈祷や有名な梅ヶ枝餅を食べたり、福岡の歴史を知ることができる小倉城、美しい景色を望む福岡タワー、マリンワールドなどの観光スポットに行きました。さらに、子どもたちが火災や地震の際に何をすべきかを学ぶことができる福岡市民防災センターにも行きました。

また、プログラム期間中、福岡の二つの学校を訪問し、学生たちと交流する機会もありました。日本の学校はペルーの学校とは異なり、この体験を通して私たちは日本の教育制度について少し学ぶことができました。子どもたちは教室や使った場所を掃除し、自分の食べ物を自分で配り、食べた後に片付けをします。これは子どもたちが持っているものや受け取ったものを大切にすることを学ぶ上でとても重要だと思います。

このプログラムで訪れるすべての場所は、子弟招へいの参加者がさまざまなこと、歴史、文化、社会、そして自分自身について少しづつ学ぶのに役立つと思います。

このリーダーとしての経験を通して、リーダーたち、県費留学生たち、子どもたちと友情を育む機会が得られ、たくさんの素晴らしい思い出を作ることができました。

この経験は、福岡とペルーの強い絆を育み、より多くの若い日系人が自分たちのルーツや日本文化を学ぶことに興味を持つきっかけとなると信じています。今回、子どもたちはこの県人会担い手育成招へい事業に参加することができましたが、この経験のおかげで、将来は福岡県子弟留学生としてさらに忘れられない経験をし、福岡や日本についてもっと学ぶことができるかもしれません。そして、彼らは今後も県人会活動に参加し、福岡とペルーの繋がりを支え続ける未来のリーダーとなるでしょう。



ハワイ福岡県人会
ウエヒラ ケルシー アケミ
Uehira Kelsey Akemi

福岡短期滞在プログラムへの参加は、私にとって本当に大きな転機となる経験でした。福岡にルーツを持つ方々と出会い、心から深い繋がりを築くことができたことをとても嬉しく思います。初めて参加したときは、言葉の壁があるため友達を作るのは難しいのではないかと心配していましたが、実際にはコロンビア、ペルー、パラグアイ、メキシコなど、さまざまな国から来た仲間と友情を育むことができ、その出会いは今でも大切な宝物です。

また、このプログラムを通じて、年齢や文化の違いを超えてお互いを理解し合うことの大切さを改めて実感しました。活動や自由時間の中で、子どもたちが自然に友情を深めていく姿を見守ることができ、日本の食文化や温泉などを体験しながら、心があたたかくなる瞬間をたくさん感じました。

プログラムがさらに実りあるものとなるためには、リーダーが子どもたちや参加者一人ひとりに敬意を持ち、温かい言葉と態度で関わることが大切だと思います。そして、餅つきや駅弁、明太子の展示、福岡タワーや海の中道への船旅、長浜鮮魚市場や八女のお茶工場、和紙うちわ作りなど、個人旅行ではなかなか体験できないことを仲間と共有できたのは本当に貴重でした。こうした体験を通じて、子どもたちとさらに深く交流できる機会があれば、より思い出に残るプログラムになると感じています。

最後に、このプログラムで世界各国からの素晴らしい仲間に出会えたこと、そして自分のルーツである福岡と改めて繋がることができたことに、心から感謝しています。ハワイには「ご縁は宝」という言葉がありますが、このプログラムを通じて得たご縁こそ、私にとってかけがえのない財産です。来年のリーダーや子どもたちにも、ぜひこの特別な経験を分かち合っていただきたいと思います。



シアトル・タコマ福岡県人会
エリクソン ジョン
Erickson John Keith

私は小さいころから福岡出身の祖母の影響を受けてきました。赤ちゃんの時、祖母が私を育て、日本語で歌つてくれたり、福岡の料理を作ってくれたりしました。大きくなると、祖母と祖父をますます尊敬するようになり、二人は私にとって「正しく豊かに生きる」ことのお手本になりました。

子どものころから、日本語を学びたい、日本に行きたいと思っていましたが、手が届きませんでした。高校では日本語の授業を取りたかったのですが、学校にはありませんでした。大学で少し授業を受け、その後は独学をしましたが、長くは続きませんでした。数年前、祖母が亡くなり、とても寂しい思いをしました。そして今回、このプログラムで初めて福岡を訪れることができ、本当に幸せに思います。リーダーとして参加できたことを光栄に思います。

このレポートでは、私がこのプログラムで学んだ三つのことを書きます。

友情と家族・清潔さと働き方・尊敬と贈り物の文化 です。

1. 友情と家族

福岡で出会った人々はとても親切でした。見た目が少し怖そうでも、実際はすぐに助けてくれます。アメリカでは独立を大事にしますが、私が福岡でみたことは、人々が常に公衆での振る舞いを気にかけ、集団として行動していることでした。それは慈善や施しではありません。日本では積極的に人と関わり「みんなで助け合う」考えが強いと

感じました。

私は多くの若者やリーダー、県費と仲良くなることができました。日本語がまだ初級なので、説明や指示のときはよく助けが必要でしたが、いつも誰かが手伝ってくれました。特に、南加の県費とハワイのリーダーに助けてもらいました。FIEF のスタッフや日本の参加者も、私とアリムにとても優しく、笑顔で何度も繰り返してくれました。

特に印象的だったのは、シアトル・タコマ県人会のアンディ・スナイダーさんとの交流です。彼は数年前に県人会に入り、明るい性格で多くの若者を集めました。今回、私はアンディの家に泊まり、本当の日本のおもてなしを体験しました。

近所の居酒屋に行ったとき、テレビや映画で見るような雰囲気で、店主夫婦がとても親切に迎えてくれました。料理も本当に美味しく、雰囲気も温かくて楽しい時間でした。

驚いたことのひとつは、飲み残した日本酒の瓶に名前を書いて店に置いておくという習慣を知ったことです。私はそれまで見たことも聞いたこともありませんでしたが、日本ではとても一般的だそうです。私には、この習慣が人のつながりを大切にする文化を象徴しているように感じられました——同じ場所に何度も足を運び、地元の店主を応援し、友情を育んでいくという姿勢です。

日本の小さなカフェ、公園、商店には、それぞれにその場所を愛する人々の小さなコミュニティがあり、互いに絆を築いているように感じました。

それは、かつてアメリカにもあったボウリング場やビリヤード場のような地域の交流の場を思い出させてくれましたが、今では多くの若者がスマートフォンに時間を費やすようになっています。

もちろん、日本でも電車の中などでスマートフォンを使っている人は多く見かけましたが、誰かと一緒にいるときには自然とスマートフォンはしまい、心から交流しているように見えました。

居酒屋で過ごした時間は忘れられない思い出です。最後には、店主が私を抱きしめて「アイラブユー」と言ってくれました。その瞬間、心から歓迎されていると感じました。

翌日、本来の予定では親戚を訪ねるはずでしたが、代わりアンディの祖母、叔母、そしていとこを訪ねることに誘ってくれました。祖父の仏壇に手を合わせる体験は、日本の家族文化を学ぶ大きな機会でした。山のふもとにある温泉にも行きました。どこへ行っても、私はまるで家族の一員のように迎えられました。自分の親戚に会うことはできませんでしたが、アンディのもてなしと優しさは、本当の家族のように感じました。

2. 清潔さと働き方

福岡は街も田舎もとてもきれいで整っていました。グローバルアリーナでは到着してすぐにベッドを準備しました。食事の後も必ず誰かが机をきれいに拭いていました。こうした光景は、アメリカではありません。

この文化は私に強い影響を与えました。帰国後、豚骨ラーメンを作ったとき、料理しながら片付けをし、最後に台所をすべて掃除しました。日本の料理人がいつも道具や台所をきれいにしている姿を思い出し、自分もそうしようと思いました。

さらに小学校を訪問したとき、10 歳や 11 歳の子どもたちが楽しそうに掃除をしているのを見て驚きました。床を手で拭いたり、歌を歌ったりしながら笑顔で掃除していました。クラス全体が協力していて、とても感動しました。

彼らの姿を見て、日本では幼い頃から清潔さの文化が根づいていることを実感しました。

そしてそれは友情にもつながっているように感じました。子どもたちはチームとして協力し、環境だけでなく、互いのことも大切にしていたのです。この経験で、日本人が大人になっても自然にきれいにする理由を理解しました。

3. 尊敬と贈り物

日本で強く感じたもう一つのことは「尊敬の心」でした。最初に乗った ANA の飛行機からすでに分かりました。客室乗務員はとても丁寧で、飲み物を渡すときも小さくお辞儀をしました。帰りに乗ったアメリカの飛行機と比べると、大きな違いを感じました。日本では「礼儀正しくすること」が当たり前であり、とても大切にされていると思いました。

日常生活の中でも、この「尊敬の心」は至るところに表れていました。コンビニでも「いらっしゃいませ」と元気に言われ、お釣りは両手で丁寧に渡されました。レストランでは店員が膝を少し曲げて料理を置き、店を出るときには何

度も「ありがとうございました」と言ってくれました。駅で道を聞いたときも、ただ教えるだけでなく、一緒に歩いて案内してくれる人がいました。こういう小さな行動が、日本の社会をとても気持ちよくしていると思います。

また「お土産(おみやげ)」の文化にも感動しました。リーダーや県費はみんな、きれいに包んだお菓子や小物を持ってきて交換していました。私は少ししか準備していませんでしたが、多くの人から贈り物をいただき、とても謙虚な気持ちになりました。特に小学校の子どもたちから手作りの小さな品をもらったときは、心から嬉しかったです。

この経験から、贈り物は物の大きさではなく「ありがとう」という気持ちを伝えることが一番大事だと学びました。私はこれからもっと人に感謝を伝えたいと思います。

最後に

このプログラムを振り返ると、私の考え方方が変わったと感じます。最初は「祖母の故郷を見たい」「子どもたちを助けたい」という気持ちでしたが、実際はもっと多くの学びを得ました。

子どもたちとの時間は特に大切な思い出です。シアトルのリアムとナツミはもちろん、ハワイや LA、ペルーなどの子どもたちとも仲良くなれました。夜と一緒にカードゲームをしたり、サッカーやバレーボールをしたり、福岡の街を歩いたりしました。言葉が少ししか分からなくても、笑顔や一緒に過ごす時間で友情が生まれることを感じました。

グローバルアリーナでの生活では「みんなで子どもを見守る」という考え方を学びました。アメリカでは自分の子どもだけを見るのが普通ですが、日本では全員の子どもを全員で見守る雰囲気がありました。これはとても素晴らしい文化だと思いました。

リーダーや県費の皆さんとも強い絆をつくることができました。食事や体験を共にし、協力して子どもたちを見守ったことで、本当に家族のように感じました。これからも連絡を取り合い、また福岡やアメリカで再会したいと思います。

そして何より、この経験は私にとって祖母の思い出を大切にする機会になりました。福岡の街を歩き、祖母が食べた料理を味わい、祖母の故郷の人々と出会うことで、祖母を近くに感じました。祖母はもういませんが、この経験を通して「きっと誇りに思ってくれている」と思います。

この二週間で学んだことを、これから的人生でも大切にしていきたいです。もっと人に敬意を払い、きれいにし、共同体を大事にし、贈り物で感謝を伝えること。それが今回のプログラムで私が得た一番の宝物です。

このプログラムを準備してくださった FIEF、リーダー、県費、そして子どもたちに心から感謝します。参加できて本当に光栄で、幸せでした。ありがとうございました。

参加者レポート

福岡県移住者子弟
(県費留学生)



ブラジル福岡県人会
横山 江藤 みゆき レジーナ
Eto Yokoyama Regina Miyuki

子弟しようへいのプログラムを機に自分の語学の足りなさを痛感しました。他の国のリーダーの方々、プログラムに参加した子供達とも上手にコミュニケーションが取れなく、伝えたい事が伝わらないのは大変でしたが、次第に打ち解けていったので一安心。この経験を得て、違う言語を勉強するモチベーションに繋がったので良かったです。このプログラムを通して福岡の観光名所を訪れて、自分のルーツの事を少しでも知れたのはとても貴重な事ですし感謝しています。忘れられない経験をさせて頂いてありがとうございました。



ブラジル福岡県人会
麻生 エニオ 崇雄
Aso Enio Takao

私は子弟招へいを参加するのは楽しみにしていました。確かに疲れましたが、すごく楽しかったし、いろいろなことを学べました。

その中で気づいたことの一つは、他の言語を知ることの大切さです。もし日本語、英語、あとちょっとだけのスペイン語を知らなければ、このプログラムをこんなに楽しめられなかつたと思います。

あと、子どもの世話をすることは簡単じゃないと学びました。子どもたちはすごくおとなしくて、いい子だったけど、それでも子どもを預かるのは大きな責任が必要だと感じました。

また、日本の小学校や歴史的な場所、そして子どもたちが一番気に入ったみたいなグローバルアリーナなど、いろんなところを訪れることができました。

このような機会をいただけたこと心から感謝しています。できれば、次はリーダーとしてまた参加したいです！
本当にありがとうございました！



ブラジル福岡県人会
田仲 金田 明男 チアゴ
Kanada Tanaka Thiago Akio

今回の短期プログラムにおいて、私たち県費留学生は、世界各国から福岡に集まった福岡県出身者の子どもたちのお世話をする機会をいただきました。

7月の期間中、私たちは子どもたちと共にグローバルアリーナに宿泊し、生活面でのサポートや、日本および福岡の文化に慣れてもらうための手助けを行いました。

最初のうちは、私たち県費同士、リーダー、そして子どもたちもお互いを知る段階でしたが、およそ3日ほどで打ち解け、強い絆が生まれました。子どもたちが日本について学び、笑顔を見せてくれるたびに、私自身も嬉しい気持ちになり、一日一日がとても充実したものとなりました。子どもたちは皆とても礼儀正しく、特に大きな問題もなく過ごすことができました。

この経験を通じて、私は子どもたちのケアや交流に関する多くの学びを得ました。プログラム期間中にはいくつかの困難もありましたが、その度に全員で協力し合い、無事に解決することができました。そのため、協調性の大切さを身をもって学ぶことができたと思います。

プログラムの最終日、子どもたちと別れなければならないことに寂しさを感じましたが、日本での経験や印象が彼らにとって非常に前向きなものであったことを心から嬉しく思います。

今回の経験は、2025年の県費留学生としての私の活動の中で、特に心に残る大切な思い出となりました。



ブラジル福岡県人会
秋吉 マルシオ 秀雄
Akiyoshi Marcio Hideo

今回の子弟招へいプログラムでは、福岡出身の日系人の子弟たちと、さまざまな国から集まった参加者と交流し、コミュニケーションを取る機会をいただきました。全体的に、とても楽しく貴重で、他文化に触れ、世界観を広げることができた素晴らしい経験となりました。

子どもたちやリーダーたちとの交流を通じて、日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語の4言語で理解力を実践し、また、各国の日系人の生活や、それぞれの国における日系社会のあり方についても学ぶことができました。

プログラム中には、さまざまな場所を訪問し、福岡県がどれほど多様で文化的に豊かな地域であるかを改めて理解することができました。

見学や子どもたちとの遊びの時間においては、私は単なる引率者としてだけでなく、彼らのお兄さんのような立場でも接しました。常に健康面に気を配り、物を忘れないように、持ち物を失くさないように注意し、最大限楽しみながら自分たちのルーツと再びつながることができるよう努めました。

私は以前から日本の教育制度や学校に関心を持っていましたので、実際に学校を訪問し、生徒や先生、職員の方々と交流・対話することができたのは、大変素晴らしい機会でした。学校の仕組み、生徒や先生方の日常、そしてブラジルの学校と比較した際の主な違いについて、より深く理解することができました。

この子弟招へいプログラムは、福岡県や海外の日系社会について学び、自分の能力をさらに高めができる大変貴重な機会でした。



ブラジル福岡県人会
中尾 白井 多美
Ussui Nakao Tami

福岡県子弟招へいプログラムに参加できたことは、本当に思い出深く、貴重な経験でした。

特に印象に残っているのは、ロボット技術で有名な安川電機を見学したことです。この会社は、福岡県の革新性や技術の進歩を象徴していると思います。伝統のある地域で、最先端の技術が開発されているのを見るのはとても感動的でした。

また、太宰府で一緒にランチを食べたり、みんなでカツ丼を楽しんだりした時間も、とても温かくて楽しいひとときでした。こういうカジュアルな時間の中で、参加者同士が自分の背景や母国の話をしながら、文化交流ができたのがとても良かったです。

子どもたちも落ち着いて好奇心が強く、プログラムを楽しんでいるように見えました。自由時間にはバレーボールやサッカーをして仲良く遊んでいる姿がとても微笑ましかったです。

福岡で楽しい思い出を作り、自分たちのルーツや先祖への理解と愛着を深めてくれていたら嬉しいです。福岡についてもっと知ることができただけでなく、通訳やコミュニケーションのお手伝いを通してグループをサポートできることにも感謝しています。この素敵な思い出を大切にし、みんなが福岡で特別な時間を過ごせたことを願っています。



パラグアイ福岡県人会
熊谷 博満
Kumagai Sosa Enrique Hiromitsu

今回のプログラムを通して、私は多くのことを学びました。

まず、県費留学生として、常に正確に日本語を翻訳し、適切に話すことの大切さを改めて実感しました。言葉の使い方一つで印象が大きく変わることを学び、今後の自分の成長につなげたいと思いました。

また、消防シミュレーターを体験する機会があり、日本の防災意識の高さや、地域社会の安全を守る仕組みを直接知ることができました。これはとても貴重な経験で、自分の視野を広げるきっかけになりました。

さらに、他の参加者や関係者との交流を通して、チームワークや協力の大切さを学びました。異なる考え方や背景を持つ人々と一緒に活動することで、柔軟に対応する力やコミュニケーションの重要性を深く感じました。



パラグアイ福岡県人会
松尾 ベニテス 香
Matsuo Benitez Kaori

福岡は、その豊かで多様な食文化で広く知られています。今回のプログラム期間中、私たちは数々の地元の名物料理を味わうことができました。これらの時間は、五感を喜ばせる体験であると同時に、食文化や伝統、習慣について語り合う貴重な機会ともなりました。一緒に食事をすることで、温かく心地よい雰囲気が生まれ、互いの国での文化的慣習について学び合い、教え合う交流が自然に深りました。

宗教は、多くの社会において価値観や伝統を形づくる重要な要素です。そのため、太宰府天満宮を訪れるることは、特に印象深く意義深い経験となりました。この訪問を通じて、日本の精神文化についてより深く理解することができ、仏教の法要に参列し、いくつかの仏教的な作法を見学しました。厳かで静かな神社の雰囲気と、そこで目にした儀式は、日本と自国の宗教的慣習の共通点や相違点について考える機会を与えてくれました。

文化や精神面の探究に加えて、福岡の技術生産分野やそれに関連する法規制について学ぶ機会もありました。これらの分野は、パラグアイではまだ十分に発展していないため、特に興味深く感じました。技術革新や法的枠組みがどのように統合され、経済成長や社会発展に寄与しているのかを観察することは、大きな示唆を与えてくれました。

具体的な知識の習得だけでなく、このプログラムは私たちの人格的成長にも深い影響を与えました。文化的なルーツを強め、相互理解を促し、永続的な友情を育む機会となったのです。また、チームワーク、リーダーシップ、感情のコントロール、責任感といった重要なソフトスキルを実践し、強化する場になりました。中でも特に大切なのは、子どもたちと有意義な時間を過ごし、物語や遊び、学びの体験を分かち合うことで、彼らが自分たちの文化遺産に誇りと関心を持つきっかけをつくれたことです。

総じて、この経験は文化的没入、知的探究、そして人格形成の旅であり、私たちの視野を広げると同時に、人と人とのつながりや共感、学びを共有することの価値を再認識させてくれるものでした。



ボリビア福岡県人会
林 明里 ロレナ
Hayashi Meiry Lorena

子弟招聘プログラムでは、いろいろな場所に行き、日本の文化について少しづつ学ぶことができました。中でも一番心に残ったのは、学校を訪問したことです。私はラテンアメリカから来た子どもたちのグループと一緒に参加しましたが、日本の子どもたちの礼儀正しさや、規律を守る姿にとても驚きました。その態度から、日本の教育や考え方の大切さを感じることができました。

また、ロボット工場の見学もとても印象的でした。そこでは、人とロボットが一緒に大事な役割を果たしながら、一つの製品を作っている様子を見ることができました。その経験を通して、日本の技術の高さと、人と機械が協力して進んでいる姿を知ることができました。

さらに、子どもたちと一緒にうちわ作りも体験しました。自分で作って、飾りを付けるのはとても面白く、細かい工程があることも学びました。この経験を通して、日本で手作りのものや工芸が大切にされている理由が少しあわかったように思います。

このプログラムで学んだことは、私にとって本当に貴重な経験となり、日本文化をもっと深く理解するきっかけになりました。



メキシコ福岡県人会
ロサス フェルナンデス セシリア 恵み
Rosas Fernandez Cecilia Megumi

短期滞在プログラムへの参加は、私にとって非常に有意義で喜ばしい経験となりました。本プログラムを通じて、国際的な子どもたちや大人の方々と交流し、知り合い、そして同行する機会を得ることができました。日系人を有する各国とのコミュニケーションや異文化交流、統合を通じて、私たちが持つ日本のルーツや伝統文化を理解することの重要性を深く学びました。二つのアイデンティティを持つ者として、日本への关心と愛情を持ち続ける責任があることを強く認識いたしました。子どもたちとの協働を通じて築いたチームワーク、そして実体験を通じて得られた、日本と自国を常に結びつける役割とその影響力に関する学びは、かけがえのない財産となりました。

最後に、本経験を通じて、世代を超えて多様な人々と有意義な絆を築く力や、チームワークの価値について深く学ぶことができました。日本と私たちの母国との文化的な架け橋を強化することは、次世代の日系人にとって極めて重要であり、こうした交流を継続することが、若い世代の参加を促し、多様性や相互の親愛、そして日々の中や今回のような特別な活動を通じて培われる大切な絆を認識する契機となると確信しております。



南加福岡県人会
長谷川 エヴァン 翔太
Hasegawa Shota

今回の短期滞在プログラムを通して、私は本当に多くの貴重な経験と学びを得ることができました。

私は 11 歳のときに参加者としてこのプログラムに招待されたことがあり、全体の流れはある程度理解していました。しかし、今回は県費として子どもたちを引率し、安全で充実した時間を過ごせるように見守る立場になり、当時とはまったく異なる視点からこのプログラムに関わることができました。

地元の小学校の児童と、海外からの参加者が一緒に学校生活を体験することは、双方にとって非常に良い刺激になったと思います。文化や言語の違いを超えて、子供たちが交流し、協力し合う姿を見ることができたのはとても感動的でした。

また、県費としての立場から周囲との円滑なコミュニケーションやチームワークの大切さを改めて実感しました。プログラムの運営を支える側として参加したことでの責任感やリーダーシップを学ぶ良い機会にもなりました。

何よりも、子どもたちが福岡で多くの思い出を作り、笑顔でプログラムを終える姿をみられたことが、私にとって大きな喜びでした。この経験を通して得た学びを今後に活かし、福岡県と海外の架け橋となれるよう、さらに成長していきたいと思います。

2025.7.4 ~ 7.15

**Short Term Visit Program for
Young Descendants of Immigrants
from Fukuoka Prefecture**